

漁況予報 いわし

第127号

2005年1~2月漁期
(2005年1月17日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における11月のマイワシ総漁獲量は、28トンで前年同期の2トンを上回る漁獲量となりましたが、このうち9割は鎌倉・腰越地区での漁獲によるものでした。各定置網とも、中羽マイワシ(16~17cm)主体の魚種組成となりました。

佐島地区のまき網は、11月いっぱい漁が継続し、3統合計で160トンの漁獲がありました。鴨居地区のまき網も同様で東京湾中心に60トンの漁獲がありました。

11月の段階で、中羽サイズながら既に成熟モードに入っている個体も多く、いつ産卵してもおかしくない状況が見られました。

2004年のマイワシ漁況は、他海域が低調な漁模様の中、2001年までの水準に比べればまだまだ低いものの、3年ぶりに2,000トンを超える漁模様となりました。これは1月に来遊したシラスが、そのまま湾内に滞留し成長したためと考えられます。

全国的には依然として極めて低水準のマイワシ太平洋系群ですが、黒潮は蛇行しており、反流に乗って、効果的に東京湾・相模湾に来遊することを期待したいものです。

【かたくちいわし】

主要定置網における11月のカタクチイワシ総水揚げ量は、290トンで昨年同期(4.5トン)を大きく上回り、11月としては異例の水揚げ量となりました。12月も120トン記録しました。例年であれば5~7月が来遊のピークになりますが、昨年はマイワシと入れ替わるような来遊形態が見られ、定置網でのマイワシ漁が最も多かった7月に一度大きく落ち込み、その後秋にかけて再び来遊量が増えていきました。

魚体は2ヶ月とも10-11cm台の小型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しました。

2004年のカタクチイワシ漁況は、前年同様、非常に多くの来遊があり、資源の高水準を印象付ける漁模様となりました。ただし、暮れになってもジャミセグロ(6~8cm)が全く出現しておらず、漁獲された小型成魚も非常に痩せたものばかりでした。

今年、下半期における漁獲が気になるようです。

【しらす】

11、12月に入っても、殆ど漁の無いまま相模湾のシラス漁は終漁しました。

2004年のシラス漁況は、春先は黒潮が直進型で推移したため、シラスが湾内に来遊しにくい状況となり、過去最低の漁で終漁しました。続く夏秋シラス漁は、黒潮が大蛇行型へと変化し、これにより頻繁に発生した暖水波及によるシラスの来遊が期待されましたが、7月下旬に1週間ほど好漁になった以外は、全くの不漁で終わってしまいました。

標本船(3統)の漁獲データによれば、年計22トンで、これは前年の65トンの3割強にしかならず、90年以降で最も低い漁獲量で終わりました。

＝ 予報 ＝

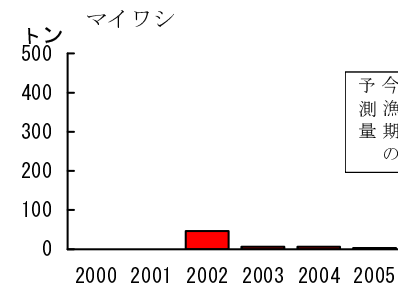
まいわし

今漁期は、中羽イワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、約2.5トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

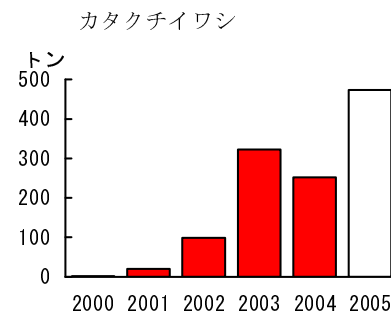
過去5年の1・2月漁期の漁獲量と今漁期の予測量



かたくちいわし

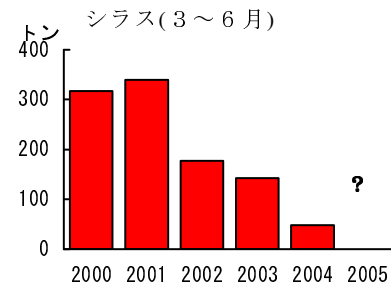
今漁期は、小型成魚及び未成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約470トンと予測されます。



しらす

神奈川県のシラス漁業は、1月1日から3月10日まで禁漁です。当所では、解禁後の漁況予測のため、しらす船曳網漁業連絡協議会の協力により、禁漁期間中に漁期前調査を実施します。今回は、大楠地区と腰越地区のしらす漁業許可船を使用させて頂くことになりました。ありがとうございます。次号で経過報告をします。



本年もよろしくお祈りします！